防災だより No.6

■問い合わせ先／防災安全課 ☎88・2600

安全な空間をつくりましょう

地震による負傷の多くは、家具の転倒・落下が原因です。直接当たってけがをするだけでなく、つまずいて転ぶ、割れた食器やガラスを踏む、避難通路をふさぐなど、さまざまな危険をもたらします。室内に安全な空間をつくるよう工夫しましょう。

一度チェックしてみよう

- [ ] **家具を置かない**

●寝室、子ども部屋、居間など、家族が長時間過ごす部屋にはできるだけ家具を置かないようにしましょう。背の高い家具などを一部屋にまとめておくのも有効です。

- [ ] **家具の向きを考えて配置する**

●家具が倒れたときに、寝ている人、座っている人を直撃しないように、また出入り口（避難経路）をふさがないように配置しましょう。

- [ ] **家具や電化製品は固定する**

●家具の固定方法はいろいろありますが、正しいやり方で行わなければ効果は期待できません。作りつけの家具を使う、背の低い家具だけを置くなど検討しましょう。

●テレビや電子レンジ、パソコンなどの電化製品は、激しい揺れにより飛んでくることがあります。固定ベルトや耐震マットを使いましょう。

- [ ] **家具の上や中身の物にも注意する**

●引き出しや扉、ガラス部分も確認しましょう。収納物が飛び出して身体に当たったり、避難経路に散乱して、ケガをする危険があります。扉が開かないように留め金をつけたり、ガラス飛散防止フィルムを貼るなどの対策をとりましょう。

●家具の上や高い位置に重い物を置かないようにしましょう。

「大地震では、家具は必ず倒れるもの」と考えて、ご自宅はもちろん、会社や学校でも、安全な空間をつくるよう心がけましょう。

瀬戸・尾張旭消防指令センターの運用を開始します

■問い合わせ先／消防署通信指令室 ☎85・0119

瀬戸市と尾張旭市は、消防通信指令業務の共同運用に伴い、「瀬戸・尾張旭消防指令センター」を開設し、11月26日（月）に119番回線の切替工事を実施した後、5日間の試行運用期間を経て12月1日（土）から運用を開始します。

これにより、現在、それぞれの市が受け付けている119番通報は、今後はすべて瀬戸市消防本部内に設置される「瀬戸・尾張旭消防指令センター」で受け付けされることになり、次のような効果が期待されています。

1. 高機能消防指令センターとして各種機能が高度化されるとともに、勤務員が増員するなど、通信指令業務全般の強化・充実が図られます。
2. GPS機能を活用した車両位置管理システムや、メールによる出動指令装置などが導入され、現場到着時間の短縮と迅速な非常参集職員の確保が可能となります。
3. 二市の境界付近で発生した災害に対して、相互応援体制の強化が図られることで、迅速に対応することができます。
4. 二市で共同整備・運用することにより、指令台の更新費用などコストの低減が可能となります。